

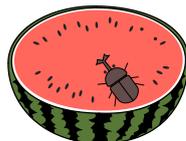
とうり さと

桃李の里

福島市立中野小学校 学校だより

令和2年7月7日発行 (No. 9)

文責：校長 白土 勲



授業参観・懇談会・役員会、お世話になりました。

7月3日(金)の授業参観・懇談会・PTA役員会には、大変お忙しい中、たくさんの保護者の方に御出席いただき、誠にありがとうございました。お子様の授業の様子は、いかがだったでしょうか。また、懇談会では担任より様々なお話があったかと思いますが、御理解いただけましたでしょうか。

お子様が自分の可能性を最大限に伸ばしていける環境を作ってあげるためには、家庭と学校の連携が不可欠です。そのためにも、保護者の皆様と学校の教職員がお子様により良い成長のために、同じ目標に向かって進んでいかなければなりません。今後も、情報交換を密にして、微調整することを大切にしながら、一步一步確実に前に進められるように努めていきたいと思っております。

何か気になることがあれば、どんなことでも学校へ御相談ください。



21世紀に求められる力とは



20世紀は、「正解」がある成長社会であり、「みんな一緒ならばよかった」(正解主義)時代であったと言われています。21世紀は、「正解」がない成熟社会であり、「それぞれ一人一人の考え・成長が大切」(修正主義)であると言われています。20世紀は、お互いに比べあい、競争していくような学びが展開されていたのではないかと個人的には考えています。(例・「受験戦争」という言葉が生まれる時代背景)

しかし、これからの時代はお互いによさ(能力)を比べあうのではなく、お互いによさ(能力)を認め合い、そのよさ(能力)が社会に役立つための伸ばし方を一緒になって考え、子どもを導いてあげる学びが必要なのだと思います。(家庭でも、学校でも)

子どもたちが大人になる頃は、現在ある職業の60%がなくなるとも言われています。(AIの進化のため)

子どもたちが本当にやりたいと思えることを見つけられるよう、自分のよさ(能力)に気づくことができるようなかわり(言葉かけ)が大切なのではないでしょうか。難しそうですが、子どもを愛おしく思い、意識してそのようなかわりができるように努力すれば、子どもたちには何かしらのメッセージが伝わると私は思い、子どもたちに声をかけています。

(だからこそ、「ダメ」ばかりではなく、「いいね」という声かけが重要ですね。)



【校長のつぶやき】

- 2年生の龍井 祐馬(たつい ゆうま)君は、授業中の発表のしかたが大変上手です。自分の考えを整理して、分かりやすく伝えることができます。2年生なのに、すごい。